

今年もポロトミンタラでフェスティバル

町はウポボイの開設を契機に、周辺のにぎわい創出や観光客の回遊性を高めるため、今年も「しらおいポロトミンタラフェスティバル2022」を開催し、町の豊かな食資源や特産品、観光資源などを広く発信します。

ウポボイ開業2周年&音楽フェスティバル

7月16日(土) 10時～15時

アイヌ文化の発信と音楽ステージ



ポロトミンタラこどもまつり

8月11日(木)、12日(金) 10時～15時

夏休みの親子や子ども向けに、ショーや工作、縁日など

ポロトミンタラ秋のスポーツまつり

9月17日(土)、18日(日) 11時～15時

著名人によるスポーツ教室やトークショー、スポーツ遊具を設置

問い合わせ先：産業経済課 観光振興グループ ☎82-8214

宇梶静江さん「文化は心の拠り所」 主演映画完成記念初上映 町内外の300人来場



上映会は5月21日、白老コミセンで開かれ、上映後は宇梶さんの講演や、ナレーションを担当した長男で俳優の宇梶剛士さんと金大偉監督のあいさつ、白老アイヌ協会によるアイヌ古式舞踊の披露なども行われました。主催は「アイヌ力～白老から世界へ～」実行委員会。

映画「大地よ アイヌとして生きる」は、アイヌ文化伝承者で詩人、古布絵作家の宇梶さん(89)＝町内在住＝の自伝を基にした記録映画。「アイヌとして生きる女性が、内なるアイヌ、内なる大地を切り拓き、その生涯をかけてアイヌ

の精神性を問うた軌跡」(藤原書店、自伝「大地よ!」書評から)を描いています。

宇梶さんは映画の中のインタビューで、差別体験も交えながら「アイヌ民族、和人と押しつけることなく、自分で判断することが大切だと思います。文化は心の拠り所」と語り、同胞へのいとおしさと、共生の思いを胸にこれまで関わってくれた人たちへの感謝の気持ちを繰り返していました。映画は白老を皮切りに全国各地で上映される予定です。



知っておこう アイヌ文化

ヘカッター シノツ

イランカラプテ。これからの社会を担う子どもたちに、アイヌ文化を楽しみながら学んでほしい!そのためにはまず、子どもたちが楽しいと感じるアイヌ文化体験を通して、自ら進んで学んでみようとする探究心を養い、

アイヌ文化の核心とも言える、アイヌ民族の精神世界の理解につなげることが非常に大切だと感じています。そのアイヌ文化理解に向けた体験の一つとして、ヘカッター シノツ(子どもの遊び)を挙げるすることができます。

ヘカッター シノツと一口に言っても数多くの種類がありますが、中でも子どもたちに好評なのが、チシマザサで作った弓矢を使ったク・エ・シノツと呼ばれる的射ちのほか、ウコ・カリプ・チュイと呼ばれるヤマブドウのツル輪とヤナギの幹で作った輪刺しを使った投輪突きです。こうした遊びで使う道具は、全て身近な自然の中で手に入るものが使われ、アイヌ民族の子どもたちは、道具作りや遊びを通して、狩猟や漁猟の技術、精神力や忍耐力を養い、ヘカッター シノツは大人になるために必要な訓練でありました。



アイヌ文化を学ぶふるさと体験学習でク・エ・シノツを体験する子どもたち

さて、チキサニでは7月23日(土)、山のイオル「森のアイヌ文化体験」を開催し、子どもから大人まで楽しんでいただけるような、ヘカッター シノツをはじめとする各種体験をご用意しております。詳細は、本紙の「くらし百科 催し イオル体験交流事業」をご覧ください。皆さまの参加をお待ちしております!

政策推進課 アイヌ政策推進室 学芸員 森洋輔

問い合わせ先：イオル事務所 チキサニ ☎82-6301